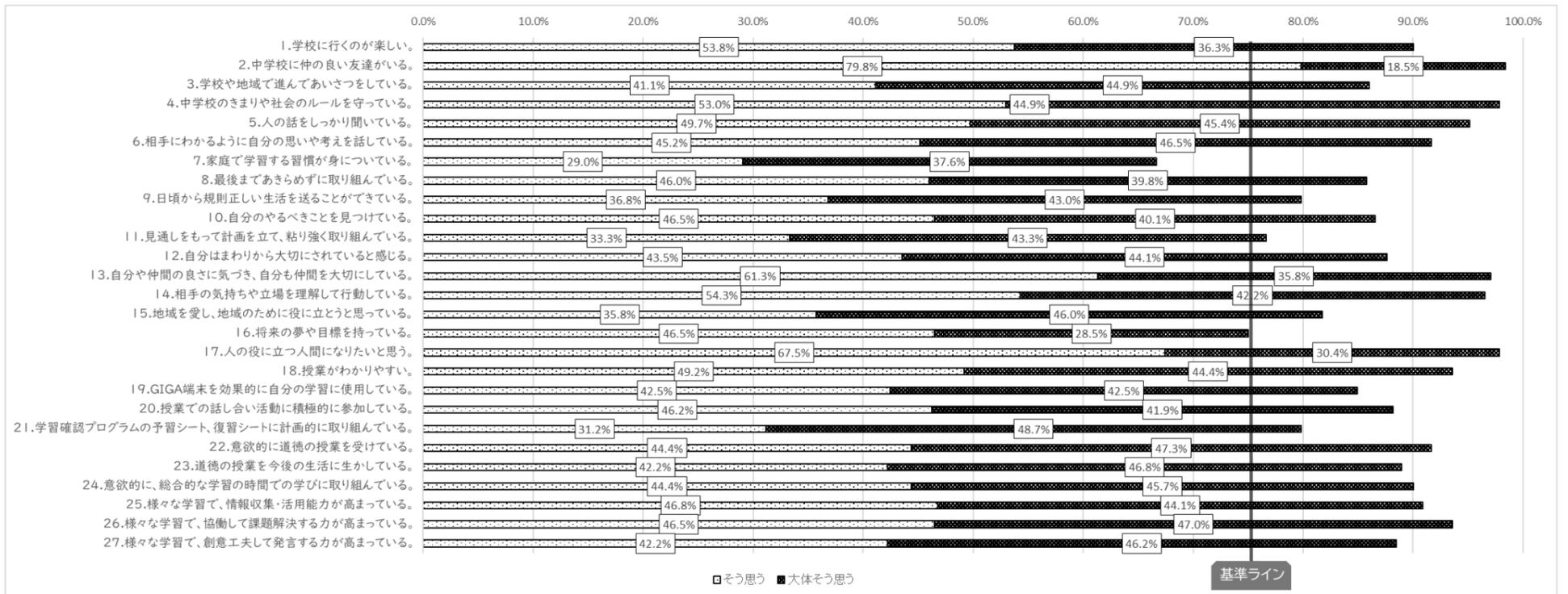


# 令和7年度 上京中学校 学校教育アンケート結果（前期）

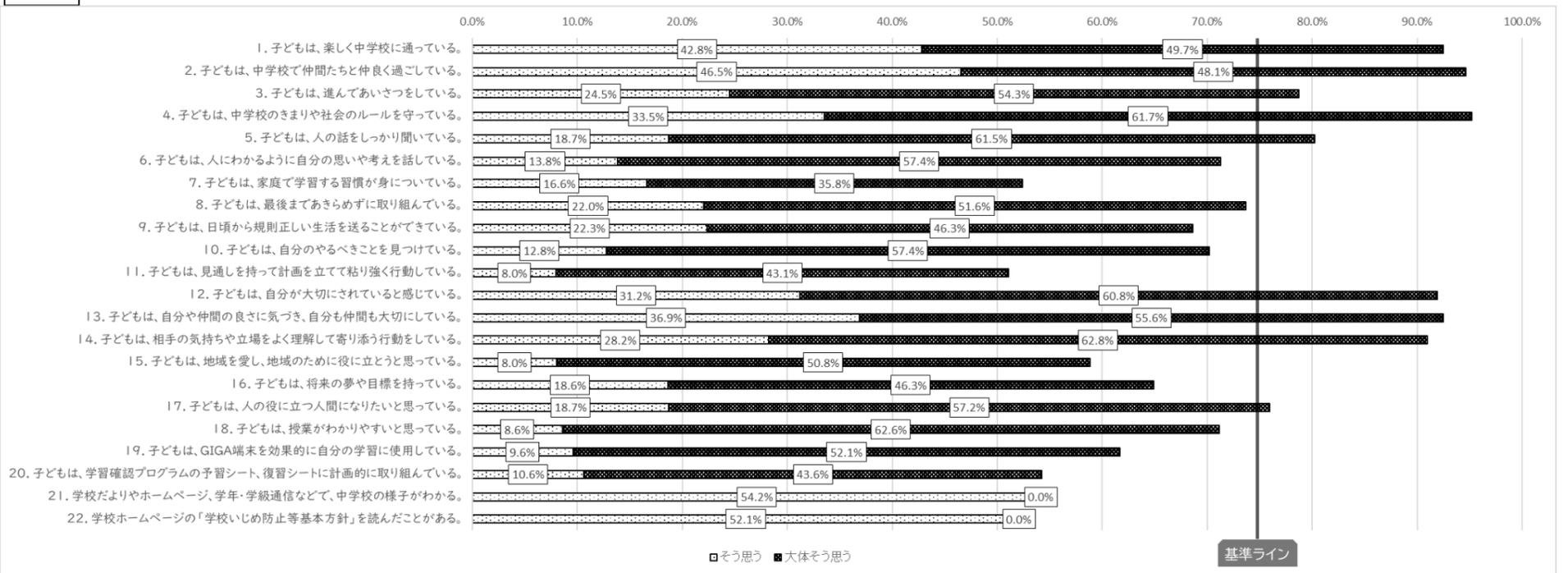
## 【結果の見方について】

- ・生徒、保護者、教職員とも Forms にてアンケートに回答いただきました。
- ・肯定的な回答のみ（横棒グラフの左から「そう思う」「だいたいそう思う」の順）をグラフ化し、75%を判断基準としています。

### 生徒

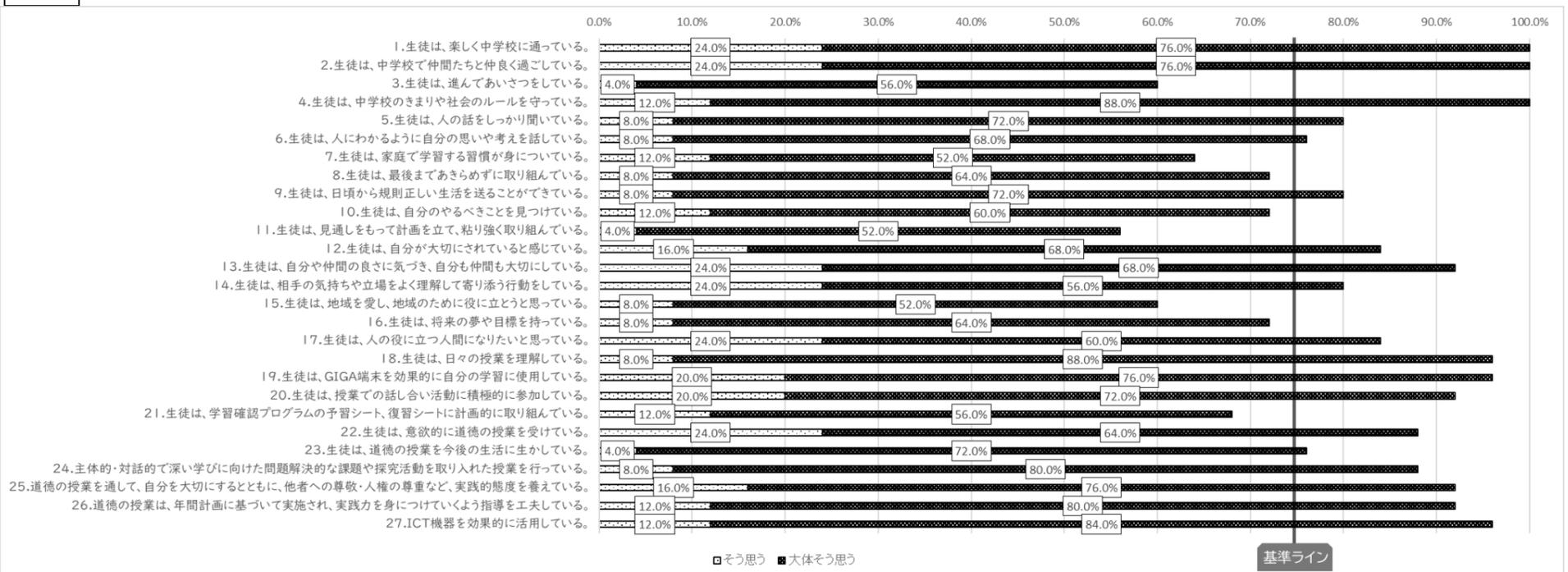


### 保護者



※設問 21・22 については、当初、選択項目が表示されていなかったため、正しく回答できない状況がありました。ご迷惑をおかけし、申し訳ございません。該当項目の数値は参考値としてご覧ください。

### 教職員



## 【結果をもとにした考察】

### ＜設問 5・19・25＞情報収集・活用能力（知識及び技能）

特に＜設問 19＞に高い結果が見られました。生徒が GIGA 端末を主体的に活用する場面を授業内で意図的に設けることで、情報収集・活用能力のさらなる育成を図ることができます。今後も、探究的な学びの中で ICT を活用する力を高めることを目指します。

### ＜設問 20・26＞協働して課題解決する力（思考力、判断力、表現力）

生徒・教職員共に＜設問 20＞では高い結果でした。引き続き、協働的な学びの場を多く取り入れ、他者と協力して課題を解決する力の育成に努めます。

### ＜設問 6・11・16・27＞創意工夫して発信する力

（思考力、判断力、表現力／学びに向かう力、人間性等）

＜設問 11＞においてやや低い結果となっています。今後は、総合的な学習の時間（上京タイム）や探究活動を中心に、自分の考えを創意工夫して発信する力を育てます。

### ＜設問 8・17＞折れない心（チャレンジ精神）

生徒は「挑戦する気持ちがある」と感じている一方で、保護者の回答には少し差が見られました。これは、学校での挑戦の様子が家庭に十分伝わっていない可能性があります。

今後は、学校での取り組みや挑戦する姿を保護者の皆様にも伝え、生徒の前向きな姿勢を共有できるよう努めます。

### ＜設問 12・13・14＞自他理解と自尊心（自己肯定感・自己有用感）

高い結果を維持しています。今後も、自分を認め、他者を尊重する心を育てる教育活動を継続し、自己肯定感・自己有用感の維持・向上に努めます。

## 【保護者のみなさまへ】

令和7年度の前期学校教育アンケートにたくさんの保護者の皆様にご協力をいただき、ありがとうございました。深く感謝申し上げます。

家庭での GIGA 端末の使い方について、課題がある生徒も複数名いることがわかりました。今後も引き続き学習のための教具という認識のもと、継続して学校でも指導支援してまいります。

この他にも、保護者の皆様から寄せられた自由記述の内容や、アンケートから見てきた課題については改善策を立て、今後の学校運営に生かしていきます。今後とも引き続きご理解・ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

## 【生徒アンケートから見える生徒の成長と課題】

### ■ 校則の理解（設問 4）

生徒たちは校則をよく理解し、自分たちで守ろうとする意識が育ってきています。今後は「さわやかなマナー」の定着を目指し、日常の言動に意識を向けるよう、継続的な指導を行ってまいります。

### ■ 計画的な学習（設問 7・11）

計画的な学習にはまだ課題があり、保護者・教職員の回答からも同様の傾向が見られました。授業と家庭学習のつながりを意識し、生徒自身が目標を立て、振り返り、改善する力を育てる指導を進めてまいります。

### ■ あいさつの習慣（設問 3）

生徒・保護者の評価は安定していますが、教職員の評価はやや低めです。学校全体であいさつの意味や方法を共有し、教職員の関わり方や声かけの質も見直ししながら、より良い習慣づくりに取り組んでまいります。

### ■ チャレンジ精神（設問 8・17）

生徒たちは挑戦する気持ちを持っていますが、保護者との認識に差が見られました。挑戦の場面を可視化し、成果だけでなく努力の過程を認める文化づくりを進めてまいります。教職員の声かけやフィードバックの質が、生徒の意欲に大きく影響するため、丁寧な関わりを心がけてまいります。

### ■ 自己肯定感・自己有用感（設問 12・13・14）

高い結果を維持していますが、今後も継続的な支援が必要だと考えています。承認の言葉や役割の付与、仲間との関わりを通じて、生徒の自尊感情を育てる場面を意識的に設けてまいります。